

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀(りんどう)		
所在地	大阪府貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成31年1月16日	評価結果市町村受理日	平成31年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791300094-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南海本線貝塚駅から程近い場所にあり、交通の便が良い立地にあります。ホームの暮らしのなかで一人お一人に役割を持っていただき生きがいのある暮らしを、楽しく送っていただけるように支援しています。また近所の魚屋さんへの買い物、お地藏さんへのお参りを散歩コースに組み入れています。そして、季節ごとに行事を取り入れて皆様に季節の移り変わりを感じていただいたり、地域の認知症カフェや近所の幼稚園でお花見をさせていただいたり、地域との交流も多く行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは新しい管理体制の下管理者と職員は会議や日々の支援の中で話し合い、課題が上がれば改善に向けて取り組みチームで丸となり利用者一人ひとりに合った支援となるよう努めています。利用者は日々の中でお茶を出すこと等の役割を持ったり、カラオケや歌を楽しみ、塗り絵や脳トレをしたり、一級レクリエーション介護士の資格を持つ職員の下様々な作品作りやイベントに取り組み利用者は活き活きと過ごしています。また日課の散歩での挨拶や地域の祭りであるふとん太鼓やだんじり、神社での落語会、認知症カフェ等に参加したり、幼稚園との行き来や中学生の訪問があり地域との交流を図っています。またホームの敬老会に近隣の方を招いたり、近隣の方からの依頼があり高齢者の方の様子を見に行く等ホームとしての役割を果たしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に社是と経営理念を唱和し実践に繋げている。	ホーム独自の理念である「思いやり 笑顔大切に」を玄関に掲げています。日々利用者と接する中で理念を念頭に置き笑顔を大切にされた支援に努めていますが、理念の定期的な確認や理念にそった支援を振り返る機会が十分に持てていません。	管理者と職員はホーム独自の理念について会議等で話し合ったり、実践出来ているかどうかの確認を定期的に行ってはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の魚屋さんやお地藏さんのお参りを散歩コースに組み入れたり、イベント時近くの幼稚園児や中学生を招待している。	自治会に加入し地域の情報は掲示板や近所の方から届く広報で得ており、地域の祭りであるふとん太鼓やだんじりを観に行ったり、月1回認知症カフェや神社で行われる落語会に利用者と一緒に参加しています。幼稚園児との年2回の交流やクリスマス会に中学生の訪問があり、敬老会には近隣の方を招いています。また傾聴ボランティア等の地域ボランティアの受入れも行い、機会を見つけて地域との関わりを深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貝塚市介護者家族の会(貝塚市社協開催)に参加し、その定期会の中で発表や質問等の機会を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ずホームにて開催している。市の担当者や民生委員、地域包括、ご家族様に参加して頂き意見や要望をお聞きし議事録を玄関に置き、どなたにも見ていただけるようにしている。	会議は2ヶ月に1回、家族や民生委員、市役所職員、地域包括センター職員等の参加を得て開催しています。写真が掲載されているホーム通信を見もらいながら開催し、利用者の状況やホームの活動、ヒヤリハットや事故報告を行い意見やアドバイスをもらっています。地域の情報をもらったり、畑ボランティアの募集について紹介を得る等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。また、貝塚市グループホーム部会では相談、研修を行っている。	市担当者の運営推進会議への参加を得ており、わからないことがあれば出向いて相談したり電話でも聞いています。また市主催のグループホーム部会に参加し協力関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っている、玄関の鍵は夜間以外常に開いている。	年に1回身体拘束排除についての研修を行い欠席者には資料を配布し、毎月の会議の中でも話し合い言葉による行動制止等について学ぶ機会を多く持っています。玄関やユニットの入り口の鍵は開いており、外出希望があれば一緒に行ったり、散歩を日課とし日常的に閉塞感の無いよう支援しています。	

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、日常の介護のなかでどのようなことが虐待になるのかを知り防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議や勉強会にて制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にそって相手が納得されるまで、わかりやすく説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として顧客満足度調査を行っている。 管理者スタッフがお客様、ご家族と何でも話せる環境づくりを心がけている。	利用者の要望は日々の支援の中で聞いており、家族からは訪問時に声を掛けて聞いたり、電話をかける事や手紙を出す事もあります。個別の要望が多くその都度対応し、ホームの予定についての意見を受けた際は毎月作成しているほほえみ通信に行事予定を掲載する等意見を受けてサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションをはかり毎月の会議で話しやすい雰囲気の中で意見交換を行っている。	月1回ホーム全体の会議があり勉強会等を行い、その後フロア会議を行い意見交換をしています。管理者が変更となり新しい体制となった事もあり職員との面談の機会を持ち意見を聞き、また意見を出しやすい環境作りにも努めています。食事内容の意見があれば話し合い速やかに改善します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントを行っている。ホーム見学時や入居後は傾聴を心がけ何でも安心してはなせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいたり、センター方式を活用し、ご家族からご本人の生活状況やご家族の要望などの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ずおこなっている。場合によっては他のサービスや事業所を紹介することもおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や、掃除、洗濯、料理などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはお茶をお出しして挨拶し、ご家族と会話するなどして信頼関係が築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とともになじみに美容院に行かれたり、墓参りをされたりしている、友人の来訪もあり、また来て頂けるように声かけを行っている。	友人等の訪問があった際にはリビングでお茶を出してゆっくり過ごしてもらえよう支援しています。馴染みの神社に行ったり地域の祭りを観に行く等の支援をしています。家族の協力を得て馴染みの美容院や昔住んでいた所、知り合いの家、墓参りに行ったり、自宅に帰り泊まる方もいます。また手紙を出す支援等、馴染みの関係継続の支援に努めています。	

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるように、リビングでの座席の位置を配慮したり、共通の話題を提供したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、いつでも相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族との何気ない会話の中から要望などを把握するように努めている。困難な場合はご本人の立場に立って考えている。	入居前にホームに来てもらったり施設等に出向き、生活歴や好み、暮らし方、思い等を家族に聞いたり、アセスメント用紙に記入してもらい情報収集を行い、担当のケアマネジャーからも情報ももらっています。入居後はカンファレンスで話し合い、得た情報は書類に追記し、意思疎通の困難な場合も表情を見て視線や口の動きから読み取るなど思いを理解できるよう配慮し本人本位となるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時のケアマネージャーなどから、ご本人の了解の上、情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには介護職員だけでなく、ご本人、ご家族にも参加をお願いしている、また必要に応じ主治医、訪問看護師、鍼灸師、にも意見をいただいている。	介護計画は本人や家族の意向やアセスメントを基に作成しており、入居後は1ヶ月、その後は3ヶ月から6ヶ月で見直しを行っています。短期目標の設定期間に合わせてモニタリングとサービス担当者会議を行い、会議には可能な場合本人や家族も参加し、毎日計画にそった支援の実施記録も行っていきます。また必要に応じて医者看護師、マッサージ師の意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表、個別の介護記録に記録している。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	折々に地域の方々とコミュニケーションをとり、協働できる関係づくりをおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に受診することもできる、受診は基本的にご家族に対応してもらっていて、事情のある場合はグループホームでもおこなっている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続出来る事を伝えていますが、現在は全利用者が24時間連絡可能なホームの協力医に2週間に1回の往診を受けています。皮膚科等の専門医への受診の際は家族が付き添い、必要な方に月1回の精神科の往診や鍼灸院の訪問があり、現在は全員が訪問歯科による治療や口腔ケアを受けています。また週に1回訪問看護師による健康管理を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり気になることがあれば相談し、情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときはお見舞いに行き病院関係者との関係づくりに勤めている、退院時カンファレンスに参加し、ご家族ご本人が安心して退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合のできること、できないことの説明を行い書類を交わしている。	入居時に重度化や看取り支援についての指針を基にホームで支援出来る事や出来ない事を説明し同意を得ています。これまでに看取り支援の経験があり、重度化した場合は医師の説明を受けて家族と話し合い、その意向を確認しチームで支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、事故発生時マニュアルがあり、それらを使って定期的に研修を行っている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題に取り上げて、地域との連携に働きかけている。	年に2回消防署立会いの下に昼夜想定で通報、避難訓練を利用者と一緒に行い、水消火器で練習を行っています。消防署に夜間の搬送など困っている事等を相談しアドバイスをもらい、訓練については運営推進会議でも予定や報告を議事に取り上げ訓練の際には隣家への声かけを行っています。また水や食料等必要な物を備蓄し管理を行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときは必ずノックし許可を得てから入室している、また日々の介護の中で自己決定を意識した言葉かけを行っている。	年に1回認知症ケアや接遇、顧客満足度に関する勉強会がありその中で認知症の方への対応や尊厳について学ぶ機会があり、会議などで職員に周知しています。利用者に話し掛ける際は前からゆっくり話すようにしており、トイレへの声掛けについては声の大きさ等プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話のなかでご本人の希望や意見を聞いたり、思いを引き出せるような声かけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間、散歩の行き先、行く時間などできる限り希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装や好きな服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせ、刻み食、ミキサー食の提供も行っている、またイベントなどでは皆さんの好物の寿司を出前してもらって楽しんでいる。	利用者の希望を聞きながら献立を考え近くのスーパーに食材を発注し、週に2回利用者も一緒に近くの魚屋に買物に行っています。利用者には野菜の下拵えや盛り付け、食器拭き等に携わってもらっています。お節料理や節分の巻寿司などの季節に応じた食事や誕生日会や敬老会の際の食事にも力を入れ、寿司の出前や手作りおやつなども取り入れ食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記録している、食事、水分量の少ないときはプリンやゼリー、牛乳など好みのものや医師によりエンシュアリキッドなどの栄養剤を処方してもらっている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一週間に一度歯科医師による往診がある、毎食後歯磨きなど個別に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し状態に応じた個別の対応をしている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、出来るだけトイレでの排泄が出来るようパターンを把握しタイミングを大切に支援を行っています。布の下着で過ごしている方もおり維持に努め、テープ式紙オムツを使用し退院して来た利用者には紙パンツとパッドに変更するようにしています。また夜間はその方に合った支援となるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をしている。食事づくりでは繊維食品、乳製品などを取り入れている、運動や腹圧マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本とし、入浴時間も希望に添えるように個々にあった支援をしている。	入浴は週に3回午前と午後16時くらいまでの時間帯で希望を聞いて支援し、一人ずつ湯を入れ替えています。拒否がある場合は時間をおいたり、仲の良い利用者に声を掛けてもらう等工夫し、季節の柚子や菖蒲湯等の季節湯を取り入れ、無理なくまた楽しめるように入浴の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を大切に、就寝時間は特に決められていず、状況に応じた支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局と連携をとりながら服薬支援をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り役割を持っていただけるように家事などに参加してもらっている。レクリエーションも希望に沿ったことをしてもらっている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の悪い日以外は近所の散歩や買い物に出掛けている、会話のなかでご本人から要望などがあった場合にはご家族に協力を仰ぐこともある。	近所の地藏尊や神社、寺等への散歩が日課になっており、また週に2回魚屋に買物に行っています。初詣や幼稚園での桜の花見、ふとん太鼓やだんじり祭り見学等季節の外出の他認知症カフェにも出掛けています。また家族の協力を得て自宅に帰ったり、墓参りや昔住んでいた場所、美容室に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りの支援をしている、希望があれば電話をすることもできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな掃き出し窓があり、光がよく入る、清潔で常に整理整頓ができてるように心がけ、空調温度もこまめに調節している。壁面に季節や行事にあった飾りつけをおこなっている。	季節感を大切にしており、利用者と一緒に作成した季節の作品や雛人形等の季節の飾りをリビングや玄関に飾り、また利用者の写真や作品を掲示し温かい雰囲気作りに努めています。テーブルの配置は利用者の相性を考慮し、空気清浄機や温湿度計を配置し、床暖房が設置されており温湿度管理を行い、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座席位置については常に状況をみながら変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の馴染みのある家具や布団、小物などを持ち込んでいただくようにしている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、利用者は仏壇や家族の写真、鏡台、ソファ、タンス、目覚まし時計等大切にしている物や馴染みの物、使い慣れた物を持ち込み、配置は本人と家族で行っています。居室の掃除は可能な利用者と一緒にいき、また習慣に合わせて布団で休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前にお名前のプレートをつけたり、トイレもすぐに分かるように表示している。廊下やリビング、トイレには手すりを取り付けてあり安全に歩行ができるように配慮している。		